

令和7年度学校評価アンケート調査報告（総括）

本アンケートは151件の回答を得た。内訳は、生徒53名（35.1%）、保護者98名（64.9%）であり、保護者からの回答が多くを占めている。学年別では1年57名、2年54名、3年39名、コース別では、全日型97名（64.2%）、土曜32名（21.2%）、フレックス22名（14.6%）となっている。次年度は生徒の回答を徹底したい。

本年度に実施した学校評価アンケートの結果から、本校の教育活動全般については、概ね高い評価を得ていることが確認された。特に、「本校に入学してよかった」とする回答が大多数を占めており、生徒および保護者の満足度は非常に高い水準にある。また、教職員の対応の丁寧さや相談しやすさ、個々の状況に応じた柔軟な支援についても肯定的な評価が多く、本校が大切にしている「生徒一人ひとりに寄り添う教育」が着実に実現されていることがうかがえる。

自由記述においても、不登校経験や転学に不安を抱える生徒に対して、安心して学校生活を送れる環境が提供されていることや、教職員の温かい関わりによって生徒が前向きな変化を遂げていることへの感謝の声が多数寄せられた。これらの結果から、本校の教育理念に基づく実践は、生徒の自己肯定感の回復や社会的自立に向けた成長を支えるものとして、確かな成果をあげていると総括できる。

一方で、学校の教育理念が十分に伝わっていると感じる回答の割合は相対的に低く、理念の浸透と共有の在り方が課題として明らかとなった。今後は、教育活動のあらゆる場面において理念とのつながりを意識し、生徒および保護者に対して分かりやすく発信していくことが求められる。

また、主権者教育に関しては、自由記述においてその充実を求める意見が見られた。社会の一員として主体的に判断し行動する力の育成は重要な教育課題であり、政治や社会の仕組みを自分事として捉え、多様な意見に触れながら考えを深める学習の充実が求められている。

さらに、服装・頭髪指導や生活指導に関して、教職員間での指導のばらつきや、生徒によって対応に差があると感じられている点が指摘されている。今後は、指導の目的や基準を教職員間で共有し、統一した方針のもとで一貫性のある対応を図る必要がある。その際、画一的な指導に偏るのではなく、生徒の状況に応じた柔軟さを保ちながらも、説明可能な指導の在り方を確立することが求められる。

生徒の安全・安心に関しては概ね高い評価であるものの、校内の物品管理や学習環境、人間関係に関する個別の不安の声も見受けられた。これらについては、日常的な環境整備や学級経営の工夫、教職員による継続的な見守りを通じて、より安心して過ごせる学校づくりを一層推進していく必要がある。

学校からの情報伝達に関しては、評価がやや低い傾向が見られた。自由記述においても、学習の進め方やレポートの取り組み方が分かりにくい、保護者への情報共有が十分でないといった意見が寄せられている。今後は、学習支援に関する具体的な手順など、「見える化」を意識した情報提供を定期的に行い、確実に伝わる仕組みを構築していくことが重要である。

以上の結果を踏まえ、本校においては、これまで培ってきた生徒理解と個別支援の強みを引き続き大切にしながら、教育理念の浸透を図るとともに、主権者教育の充実、指導の一貫性の確保、安全で安心な教育環境の整備、そして情報共有の改善に重点的に取り組ん

でいく。今後も、生徒および保護者から信頼される学校づくりを目指し、教育活動の一層の充実に努めていく。

次年度に向けた重点目標（改善計画）

本年度の学校評価結果を踏まえ、次年度においては以下の5点を重点目標として教育活動の改善・充実を図る。

1 教育理念の浸透と共有の推進

本校の教育理念が生徒および保護者に十分に伝わっていないとの課題を踏まえ、その浸透を図る。入学時や各種行事、日常の教育活動の中で理念に立ち返る機会を設けるとともに、教職員自身が理念を意識した指導を行うことで、学校全体として一貫した教育の実現を目指す。また、ホームページや各種通信等を活用し、理念や教育方針を分かりやすく発信していく。

2 指導の一貫性と公平性の確保

生徒指導や生活指導において、教職員間での対応のばらつきが見られるとの指摘を踏まえ、指導の目的や基準を明確にし、教職員間で共有する。具体的には、新たに策定した生徒心得をふまえ、指導に関する基本方針や判断基準を整理し、会議や研修等を通じて共通理解を図る。また、生徒の状況に応じた柔軟な対応を尊重しつつも、その判断の根拠を説明できるようにすることで、生徒・保護者にとって納得感のある指導を実現する。

3 安全・安心な学校環境の一層の充実

生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を維持・向上させるため、日常的な環境整備と学習環境の改善に取り組む。物品管理の徹底や校内設備の点検・改善を進めるとともに、落ち着いた学習環境の確保に努める。また、人間関係に関する不安や悩みに対しては、教職員によるきめ細かな見守りと早期対応を徹底し、カウンセリング体制のさらなる充実を図る。

4 情報発信および学習支援の充実

学校からの情報がより確実に伝わるよう、情報発信の在り方を見直す。保護者への定期的な情報提供の機会を設けるとともに、学習に関する指導内容やレポートの進め方については、文書等で明確に示すなどの「見える化」をさらに推進し、学習内容の理解を深めるための支援の充実を図る。

5 ホームページの充実と主権者教育の推進

学校ホームページを生徒・保護者および外部に向けた重要な情報発信の基盤として位置づけ、その内容の充実を図る。具体的には、年間行事や日常の教育活動の様子、学習の進め方に関する情報、各種連絡事項等を分かりやすく掲載し、更新頻度の向上に努める。また、必要な情報に迅速にアクセスできる構成とすることで、利用者にとって見やすく使いやすいホームページの整備を進める。あわせて、社会の一員として主体的に生きる力を育成する観点から、主権者教育の充実を図る。具体的には、政治や社会の仕組みを自分事として捉え、主体的に考え判断する力を育む学習機会を設け、日常の授業や学校生活の中で、生徒が多様な意見に触れながら思考を深めることができる教育活動を推進する。

以上の重点目標に基づき、教職員が一体となって改善に取り組むことで、本校の教育活動のさらなる質の向上を目指す。今後も、「人は人の中で育つ」という理念のもと、生徒一人ひとりが安心して学び、自らの成長を実感できる学校づくりを推進していく。